

## 就労移行支援（養成施設） 卒業生の就職先を訪問して

管理部企画課

今回は平成19年2月に当センター「就労移行支援（養成施設）」を卒業された熊谷淳（くまがい あつし）さん取材しました。熊谷さんは、当センターに在籍中、平成17年2月に按摩・マッサージ・指圧師の、また平成19年3月にははり師、きゅう師の国家資格をそれぞれ取得されました。そして、同年10月に「こげら治療院」を開業されています。

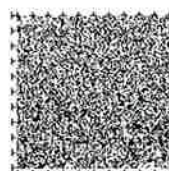
「こげら治療院」は、西武新宿線「小平駅」から徒歩5分、閑静な住宅街の中にあり、視覚にハンディキャップを持ちながらも社会参加を目指し、国家試験に合格した有資格者をスタッフに迎え、地域に根ざした治療院を目指して日々技術の向上に努められています。

「こげら治療院」の詳細はホームページ<http://cogera.net/pc/top.html>をご覧ください。

### 1. 熊谷さんが開業された「こげら治療院」のことについて、まずお話をお聞かせ下さい。

—「こげら治療院」の名称は、熊谷さん自身が考えられたのですか？どんな意味が込められているのですか？

治療院の名称についてはとても悩み、いろいろな方々に相談しましたが、どれもしっくりいかず、最終的には私自身が決めました。故郷の北海道から東京に出てきて初めて暮らしたのが小平市であったこと、その後転居してからも何かと小平という地に縁があり、奇しくも小平駅最寄り治療院を開業することになったため、親しみ易く、なおかつ小平に因んだ名称にしたいと考え、小平市の市鳥である「こげら」の名を入れて「こげら治療院」としました。



—スタッフは何名いらっしゃいますか？スタッフはどんな人たちですか？

スタッフは男性4名、女性4名の8名の方にお願ひしています。国リハセンターとヘレンケラー学院を卒業された方々です。皆、この仕事が好きで明るく気さくな人たちです。シフトを組んで常時2～3名で治療に当たっています。

—「こげら治療院」を開業されていると苦労された点もあったかと思いますが、いかがですか？

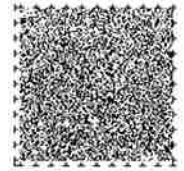
そうですね、施術を行う上で、患者さんの表情や動作が目で確認できないので、それが一番苦勞します。あと、予定していたスタッフの方が急に入れなくなった時、補充をどうするか、苦勞します。

—開業して良かったなと思うのはどんな時でしょうか？

良いスタッフと良い患者さんに恵まれ、こげら治療院が地域に根ざした運営が出来、皆様に認められていると実感できるときです。また、私個人としてこの仕事を通して社会参加できていると実感できるときは、開業して良かったと思いますね。

—「こげら治療院」を今後どうしていきたいと考えていますか？

スタッフ全員がやりがいを持って生き生きと働ける場。安心、安全に配慮し、地域に密着して誰からも愛される治療院づくりを目指していきたいと考えています。



## 2. 国リハセンター在籍中のお話をお聞かせ下さい。

—国リハセンターに入所されようと考えたきっかけは何ですか？

視力を失い、それまでの生活や仕事が続けられなくなって、今後の人生で何が出来るか、それまでの生計を維持していく方法はあるのか、あらゆる可能性を模索している時に、主治医から国リハセンターのロービジョンクリニックを紹介され、そこで生活訓練課程と理療教育課程があることを知り、入所しました。

—熊谷さんにとって、国リハセンターで過ごされた5年間はどのようなものでしたか？

全てが初めてのことばかりで最初は不安でしたが、30年振りに学生に戻り、勉強やセンター内での様々な活動を通して知り合った先生方、先輩方、仲間たちと過ごした5年間は楽しくとても充実した中身の濃いものでした。ここでの経験は今後の人生においてとても大切なものであると思っています。

—苦手な科目、逆に得意な科目は何でしたか？

生理学・臨床各論は、見えないので図や表が理解できず、苦手な科目でした。得意科目は自然科学でした。

—何かクラブ活動をしていましたか？

按摩研究会・ブラインドテニスに所属していました。

—楽しかった思い出や、特に印象に残っていることなどありましたら、エピソードを交えてお聞かせ下さい。

スポーツ交流会で塩原まで行き、露天風呂に入ったことが楽しかったですね。並木祭で按摩サロンとやきそばの模擬店を5年間出店したことも忘れられない思い出です。

## 3. 熊谷さんの今後の目標をお聞かせ下さい。

子供の頃から手に技術を持つ「職人」に憧れていましたが、ずっと営業の仕事をしてきました。やっと国家資格である技術を身につけることができました。これからはますます技術を磨き、「職人」の域に達したい。健康に気をつけて長く続けていきたいと思っています。

## 4. 国リハセンターに在籍している後輩の皆さんにアドバイスをお願いします。

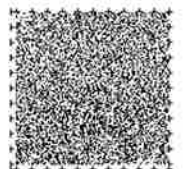
多くの仲間づくりを。チャンスがあれば、在籍中から実技の面で経験を積んでおくといいと思います。こげら治療院にも是非見学に来てください！

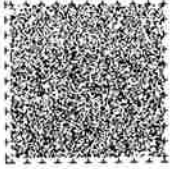
## 5. 国リハセンター就労移行支援（養成施設）のPRをお願いします。

経験豊富な先生方のもとで、多くの仲間と楽しく勉強できます！

—ご協力ありがとうございました。

これからも頑張ってください!!





#### 〈取材後記〉

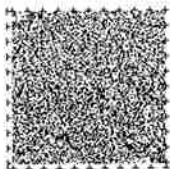
熊谷さんは、失明する前は、住宅資材の販売会社で営業をしていたそうです。が、8年ほど前、突然失明し、主治医から国リハ病院を紹介され、生活訓練課程で歩行訓練を受け、さらに理療教育課程に進んで5年間勉学に励み、あはき師の国家試験に合格し治療院を開業されました。その過程には大変なご苦労があったことと思いますが、取材を通して感じたのはむしろ熊谷さんの常に前向きに生きようという姿勢でした。

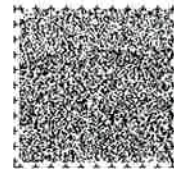
自ら開業した仕事に精力を注ぐことはもちろん、趣味も、テニス、スキー、読書と多彩で、国リハ在籍中に覚えたブラインドテニスは今でも続けている

ほか、失明する前からの趣味であったスキーにも今でも仲間たちと出かけているそうです。読書は点字図書館からデイジー図書を借りて楽しんでいるそうです。またギターなどの楽器が好きで、最近では三味線の教室に通っているんですよ、と帰り際にこっそりと教えてくれました。

そうした熊谷さんの旺盛な好奇心や趣味などを通じた仲間作り、「失明しても人生を楽しもう」という前向きな気持ちが熊谷さんのバイタリティの源ではないかと感じました。

熊谷さんの今後益々のご活躍を心より期待しています。  
(Y.I)





## リハセンターに飛来する野鳥を友に

元理療教育部長 見原 捷三

### オオバン (大鵞)

オオバンは、全長が約39cmでクイナ科の中では最も大きい鳥です。雌雄とも同色をしており体は黒く、翼は暗灰色、嘴と嘴から顔に伸びた小判型の顔面は白色を帯びています。

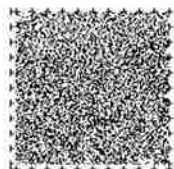
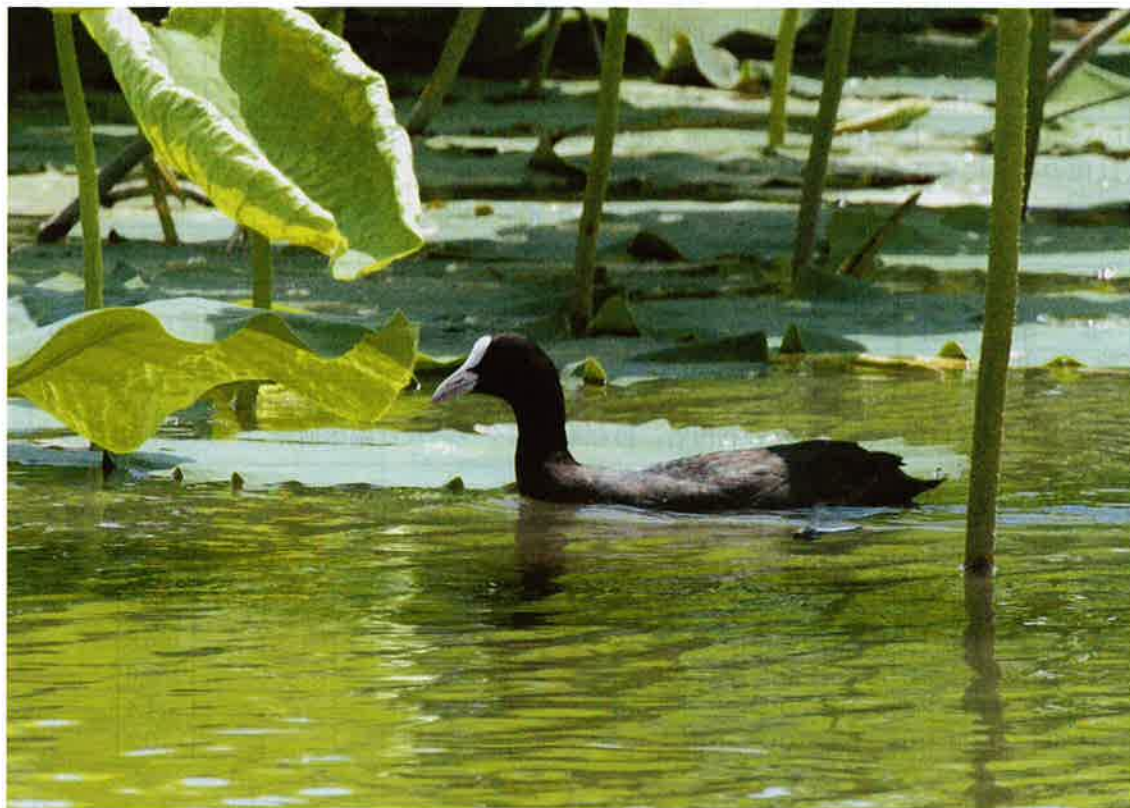
日本では、主に本州中部以北で繁殖しますが、寒冷期になると北地のものは南に移動します。繁殖地は、水草の多い湖沼や池に生息しアシ、ガマ、マコモの中を棲家としていますが、時には広い水面にも出てきて潜水もします。

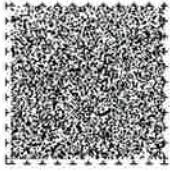
餌は、主に水草の葉や茎ですが、昆虫及び貝など

も食べます。繁殖期は4月～9月でこの間は、テリトリーを持ち浅瀬の水上の草の中に、枯葉や枯茎等を積み上げて皿状の巣を作り6個～10個の卵を産み雌雄で抱卵し約3週間で孵化します。

鳴き声は、水面を泳ぎながら「クエンー、クエンー」或いは「キョキョーン、キョキョキョ」と高く響く声で鳴きます。

オオバンの鳥名は、ラテン語から来ていますが、この他、単に「バン」とも呼び、これより小形のバンを小鵞とも呼びます。また、地方によっては、「クロドリ」などの方言で呼んでいる所もあります。





# 平成21年度

## リハビリテーション実施状況（8月報告）

### 1 利用者状況

#### (1) 昼間実施のサービス状況：月末人員

課 程		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
自立訓練（機能）	H.21	15	17	19	25	27								20.6
	H.20	11	13	13	15	11								12.6
自立訓練（生活）	H.21	10	9	9	7	6								8.2
	H.20	10	10	11	11	8								10.0
就労移行支援	H.21	56	55	53	69	63								59.2
	H.20	50	54	49	61	57								54.2
就労移行支援（養成施設）	H.21	78	77	76	75	75								76.2
	H.20	85	84	84	83	82								83.6
合 計	H.21	159	158	157	176	171								164.2
	H.20	156	161	157	170	158								160.4

#### (2) 施設入所支援サービス状況：月末人員

		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
施設入所支援	H.21	191	186	182	192	187								187.6
	H.20	189	196	194	206	194								195.8

#### (3) 独自事業等：月末人員

		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
職業リハビリセンター	H.21	69	64	64	59	62								63.6
自動車訓練	H.21	14(9)	12(8)	15(12)	17(12)	12(6)								14.0(9)
再理療教育クラス	H.21	0	0	0	0	0								0.0
臨床研修コース	H.21	5	5	5	5	5								5.0

※1 職業リハビリセンターについては施設入所支援を利用している者の内数である。

※2 ( ) は他の事業に属さない者の数である。

#### (4) 利用者数：月末人員

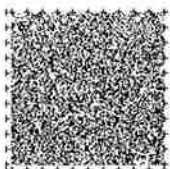
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
支援サービス	H.21	228	222	221	235	233								227.8
独自事業	H.21	14	13	17	17	11								14.4
利用者数総計	H.21	242	235	238	252	244								242.2

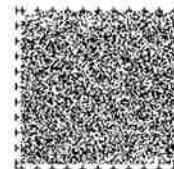
※1 支援サービスについては昼間実施サービス及び職業リハビリセンターの利用者合計数である。

※2 独自事業については自動車訓練のみの利用者、再理療教育クラス及び臨床研修コースの利用者の合計数である。

### 2 入院患者の状況（1日平均）

区 分		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
総 数	H.21	121.0	107.4	102.5	102.2	107.7								108.2
	H.20	128.4	135.7	144.0	130.3	123.6								132.4
一 般	H.21	119.4	104.8	100.5	102.1	107.0								106.8
	H.20	128.0	135.6	142.7	130.3	123.6								132.0
利 用 者	H.21	1.6	2.6	2.0	0.0	0.7								1.4
	H.20	0.3	0.0	1.2	0.0	0.0								0.3





### 3 外来患者の状況（1日平均）

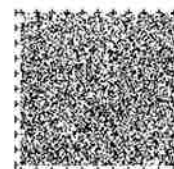
区 分		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
総 数	H.21	154.9	162.1	151.0	152.6	147.9								153.7
	H.20	161.7	168.2	163.3	165.2	153.9								162.5
一 般	H.21	143.0	147.6	138.8	139.7	136.1								141.0
	H.20	149.6	154.1	150.0	151.4	141.1								149.2
利 用 者	H.21	11.8	14.3	12.2	12.9	11.7								12.6
	H.20	12.0	14.1	13.3	13.7	12.8								13.2

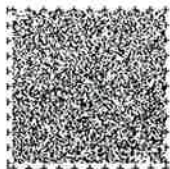
### 4 見学者の状況（実人員）

区 分		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
医 療	国 内	113	212	341	182	396								248.8
	海 外	0	25	15	11	6								11.4
教 育	国 内	3	9	19	48	31								22.0
	海 外	0	0	9	0	0								1.8
福 祉	国 内	139	182	99	99	12								106.2
	海 外	1	0	29	10	2								8.4
職 業	国 内	22	0	0	0	3								5.0
	海 外	0	0	0	0	2								0.4
そ の 他	国 内	54	19	72	35	15								39.0
	海 外	0	1	15	2	9								5.4
うち障害者 （再 掲）	国 内	4	5	13	20	1								8.6
	海 外	1	0	3	0	0								0.8
平 成 2 1 年 度 合 計	国 内	331	422	531	364	457								421.0
	海 外	1	26	68	23	19								27.4
	計	332	448	599	387	476								448.4
平成20年度合計		324	418	644	557	498								488.2

### 5 学院生の在籍状況（月末現在）

学 科	学 年	人 数
言 語 聴 覚 学 科	1 年	30
	2 年	31
	小 計	61
義 肢 装 具 学 科	1 年	10
	2 年	9
	3 年	8
	小 計	27
視 覚 障 害 学 科	1 年	4
	2 年	4
	小 計	8
手 話 通 訳 学 科	1 年	13
	2 年	12
	小 計	25
リハビリテーション体育学科	1 年	3
	2 年	3
	小 計	6
合 計		127





#### センターのロゴ

センターのロゴは、国際障害者年を記念し、入所者・職員から募集した作品の中から選定されたものです。

このロゴは、

- 1 リハビリテーションセンターを包む、リハビリに対する強い意欲・意思・たゆまざる努力、そして友情と信頼、
  - 2 リハビリテーションセンターを出発点として、未来にまた広く社会各方面に向かって伸びようとする入所者・職員の姿、
  - 3 手話の指、点字を読む指、職業、職能、理療に励む力強い5本の手指
- をイメージ化したものです。

また、NRCO は NATIONAL REHABILITATION CENTER FOR PERSONS WITH DISABILITIESの頭文字です。

制作者 住田律夫（昭和56年制定）

上のシンボルマークは、WHO（世界保健機関）のマークです。

WHO（World Health Organization）とは、国連の仕事のうち、保健衛生の分野を受け持つ専門機関であり、その目的は、全人類の健康を守るために、世界の国々が力を合わせて努力しようとするものです。

国立障害者リハビリテーションセンターは、WHO指定研究協力センターの指定を受け、国際協力を行っています。

#### 「国リハニュース」編集事務局

国立障害者リハビリテーションセンター管理部企画課

〒359-8555 埼玉県所沢市並木4-1

TEL 04-2995-3100 FAX 04-2995-3102

ホームページアドレス <http://www.rehab.go.jp/>

（国リハニュースはホームページに掲載されています）

※本誌へのご意見、ご要望等がございましたら、上記編集事務局宛

FAX又は、Eメール（[kikakuka@rehab.go.jp](mailto:kikakuka@rehab.go.jp)）をお寄せ下さい。

